

## 外務省での足跡

平成29年3月  
外交実務研修員 鈴木裕美  
(静岡県より派遣)

### 1 はじめに

静岡県に入庁して13年目に入ろうとしていた約2年前、上司から外務省への派遣研修の打診がありました。「本省勤務2年、在外公館勤務2年の合計4年。どう?」。私の心はすぐに決まっていました。「行ってみよう!」と。

もともと外務省の仕事には大きな関心があった上に、東京や海外という新しい土地に住める高揚感も重なり、心の中では不安以上に期待が膨らんでいました。家族も賛成してくれ、上司にも後押しをしていただき、平成27年4月から外務省での派遣研修が始まりました。

### 2 不拡散・科学原子力課での業務

私の配属先は軍縮不拡散・科学部不拡散・科学原子力課でした。初めて聞いた時は「なんだか恐そうな名前だな」と感じましたが、大量破壊兵器や関連物資の不拡散、原子力の平和的利用に関する外交政策といった重要な仕事をしています。

原子力の技術は、発電、医療、鉱工業、農業など様々な場面で利用されていますが、他方で核兵器にも転用され得るものです。不拡散・科学原子力課は、そうした原子力の平和的利用の促進を図りつつ、軍事的目的への転用を防止するための政策を担っています。以下では、私がこの不拡散・科学原子力課で携わってきたことを紹介します。

#### (1) IAEA(国際原子力機関)

IAEAという名前は、聞いたことがある方も多いかもかもしれません。日本人の天野之弥氏が事務局長を務める国連関連機関で、本部はウィーンにあります。2005年には、ノーベル平和賞を受賞しました。

私は、日本がIAEAと締結している「日・IAEA保障措置協定」に基づき、IAEAに申告すべき情報の通報などを担当しました。保障措置とは、核物質等が軍事的目的のために利用されていないことを確保する措置のことをいい、核物質等を保有する施設の管理者による実在庫調査結果の申告に基づき、IAEAが査察を実施するなどして

います。私が通報すべき情報には、協定で提出期限が定められているものもあるので、とにかく期限に遅れないことを第一に考えて対応しました。

また、本部で年1回開催されるIAEA総会に際しては、関係者間の調整を行うとともに、会場で開催する政府代表主催のイベントやレセプションの準備と現場対応を行いました。

イベントやレセプションでは、DVDやパネルで東北の復興の状況と食品の検査体制、福島第一原発の現状と事故の教訓を踏まえた安全性向上の取組、グローバルな課題への我が国の貢献等を説明しました。また、寿司や日本酒、東北3県（岩手県、宮城県、福島県）の菓子を参加者に紹介し、提供しました。このようなイベントやレセプションの企画、運営を担当することは初めてで不安もありましたが、皆様に助けていただきながら、無事に成し遂げることができました。



IAEA本部でのイベント(平成27年)

## (2) OECD/NEA(経済協力開発機構/原子力機関)

OECD/NEAは、31か国が加盟するOECD内の原子力に関する専門機関で、原子力政策、技術に関する情報・意見交換、行政上・規制上の問題の検討、各国法の調査及び経済的側面の研究等を行っています。

私は、OECD/NEAの主催会合への日本の関係者の参加手続、常設技術委員会等の委員登録手続及び要人訪日時の調整等、OECD/NEAに関するすべての業務を担当しました。

また、年2回本部(パリ)で開催される、意思決定機関である運営委員会に出席する機会をいただきました。加盟国の代表が各国の立場を踏まえて真剣に議論する様子を目の当たりにし、国際会議とはどういうものかを身をもって感じることができ、大変貴重な経験になりました。

## (3) 海外の原子力関係者の招へい

アジア太平洋地域の保障措置専門家の知見共有とネットワークづくりを目的に、日本は議長国として東南アジア諸国、豪州、米国、カナダ、韓国、IAEA等の関係者を招

いて、アジア太平洋保障措置ネットワーク(APSIN)年次会合を開催しました。

この会合は平成22年から年1回開催され、平成27年から2年間は日本が議長を務め、第6回及び第7回の会合を日本で行いました。白熱した議論が繰り広げられるとともに、参加者も積極的に交流するなど、専門家のネットワークづくり等の目的を十分に達成することができました。会合の後は、原子力関連施設の視察も行いました。



第7回 APSIN 年次会合(平成28年)

また、我が国の原子力政策に対する理解を深めていただくことを目的に、IAEA理事国の理事等を招へいし、関係省庁等との意見交換や原子力関連施設の視察を各年度2回ずつ行いました。行程には東京と京都の観光も組み込み、日本の文化にも触れていただきました。

参加者からは、日本の原子力技術の高さがよく理解できた、おもてなしが素晴らしかったといった感想をいただき、私自身も、日本の原子力政策や技術に関する知見を深めるとともに、外国要人への接遇の仕方も学ぶことができ、大変勉強になりました。

### 3 最後に

外務省での派遣研修も半分の2年が過ぎようとしています。外務省に来た当初は、仕事の内容、スピード感などに右往左往していましたが、皆様に助けていただきながらなんとかここまで来ることができました。私が外務省にいた足跡も少しは残すことができたかもしれません。

4月からは在外公館での勤務がスタートします。2年前と同じ、期待と不安が入り混じった心境ですが、この2年間で学んだことを活かして、より大きな足跡を残せるよう頑張りたいと思います。